

児童虐待防止シンポジウム

地域の育児支援リソースとしての病院の在り方を考える

～病院に育児支援室が存在する意義について～

子ども虐待は「福祉の問題」としてだけではなく「小児期の健康問題」として、医療が果たしうる役割を確立する必要があります。今回、院内に育児支援室を設置し、地域育児拠点として機能している二つの病院のスタッフをお招きし学びを深めたいと思います。

日時

令和7年**9月19日**（金）18:00～20:00

場所

高崎総合医療センター 講堂

対象

医療者および県内関係職種

演者/
シンポジスト

石倉亜矢子氏（函館中央病院 小児科）

齋藤 文氏 （函館中央病院 看護部）

木下あゆみ氏（四国こどもとおとなの医療センター小児科）

福田育美氏 （四国こどもとおとなの医療センターMSW）

参加費

無料

申込み

参加者を取りまとめのうえ、別紙「参加申込書」により、メールにてお申し込みください。